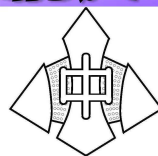


手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年4月24日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

臨時休業4日目 生活のリズムできていますか？

臨時休業4日目となりました。

散ってしまった桜にかわり、今度は校庭のヤマザクラやシダレザクラが満開となり見事な姿を見せてくれています。チューリップやツツジの花も咲いています。今朝、校庭に出てみると、草花はそれぞれに美しく命を燃やしており、春風も心地よく感じられました。ちなみに、ヤマザクラの花言葉は「あなたに微笑む」「純潔」、シダレザクラは「優美」だそうです。世の中が何となくざわつく中、優美に微笑んでくれる花々に心が癒やされました。

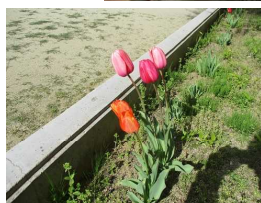
さて、生徒のみんなは一日一日をどう過ごしていますか？生活のリズムはできていますか？

ある保護者の方から、こんな話を聞きました。

「制限された厳しい状況の中ですが、家で過ごす自分の子どもが少しずつ大人に成長している感じがします。家の掃除、食器洗いなどの手伝いを毎日してくれています。妹の面倒もよく見てくれます。家の仕事などほとんどしなかった子でしたが、今は頼もしい存在となっています。…」

自分のことだけでなく、家族などの自分の周りにいる人達のこととも考え行動できるということは、とても素晴らしいことだと感心しました。

みんなもぜひ家の手伝いをたくさんして、お父さんやお母さんを助けてください。また、決められた学習課題はもちろんですが、読書や時間をかけないと普段できないような制作活動などにも挑戦してみてください。それらにより生活にアクセントやリズムが生まれるはずです。



1年学習教材 受け渡し無事終了！

4月23日（木）午前中に行った1年学習教材の受け渡しが無事終了しました。短時間ですが生徒の元気な姿を見ることができて安心しました。ある先生も「子どもに会えるのが嬉しいです！」と言って笑顔を見せていました。これからが本番です。提示された学習の進め方にしたがって、確実に学習を進めてください。

保護者の皆様へ

◆ 生徒達の様子は
いかがでしょうか？

自粛や制限の中ではありますが、上記のあるご家庭のように、生徒の自立心を養える機会であると考えます。家族の一員としての役割を果たすことができるよう、どうか手伝い等の役割を与えていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

◆ 教職員の新型コロナウイルス感染防止のため、特に職員室等での接触や3密を避けるため、4月23日より教職員の在宅勤務を取り入れ、勤務をローテーションにしております。管理職及び各学年少なくとも1名は勤務しております。問い合わせ、心配ごとや悩みの相談については対応できますので、何かあれば遠慮なく学校にご連絡ください。



みんなは
どう考えますか？

最前線で“見えざる敵”と闘う医療従事者達

医療現場が今、窮地に立たされている。

感染防護のためのゴーグルをつけた痕が顔に痛々しく残る医療関係者の画像や帰宅時に駆け寄る息子を抱きしめられずに泣き崩れる看護師の動画などを目にする事で、医療従事者の窮状が伝わってくる。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、最前線で奮闘する医療従事者達に感謝の意を示す動きが広がっている。敬意を込めて決まった時間に拍手をしたり建物をライトアップしたりする取り組みは海外で始まり、日本でも広がっている。専門家は「医療崩壊を防ぐため一人一人ができることを考えるきっかけになってほしい」と話している。

「クラブ・フォー・ケアラズ（医療従事者らへの拍手を）」と名付けられた呼びかけは英国の市民らが発案したとされる。感染防止のための外出規制が敷かれているため、市民らは決まった時間に自宅の玄関先やバルコニーから一斉に拍手を送る。その様子がSNSを通じて各国に伝わり、米ニューヨーク中心部では医療従事者らが勤務を交代する午後7時などに合わせて市民らの拍手や口笛が街中に鳴り響くという。

国内でも医療従事者らに感謝の意を伝える動きが広がり始めている。「感謝の拍手を」。

福岡市役所の外壁に10日正午、医療や介護に携わる関係者に向けた応援幕が掲げられ、ベランダに出た職員らが一斉に拍手をした。福島県いわき市でも、保育園の子ども達が拍手するニュースが流れた。

「実際5月の頭くらいにマスクの在庫がなくなる。基本1週間使うようにと言われていて、水が飲めない、トイレにも行けないという状態で3時間くらい対応しているので、疲労だけがたまっていく。感染とかの心配も大丈夫かなって。」

現場で働くある看護師の訴えだ。深刻化する医療現場の人手と物資の不足。最前線で“見えざる敵”と闘っている医療従事者達。我々の想像を絶する毎日を過ごしているに違いない。

今、そんな命がけで闘う医療従事者を支援する動きがある。ジャニーズ事務所は、医療用マスク50万枚と防護服3万3千着を4月末から医療機関に提供するとのこと。プロ野球球団の阪神タイガースは、大阪市に防護服の代用品として、雨ガッパ4500着を提供した。ローソンも病院内に併設された店舗で医療従事者にコーヒーとスイーツを半額で提供する予定だという。このようにスポーツ界、芸能界、企業や様々な団体・個人からの医療従事者への支援の輪も広がりをを見せている。

その一方で、4月22日に行われた政府の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の尾身茂副座長の記者会見での訴えが胸に刺さった。

「今日は特に強調したいことがある」とはじめた尾身副座長は、「医療機関を含む様々な場所で偏見と差別が起きてしまっている。特に医療機関では院内感染が起こり、医療従事者への偏見や差別が拡大している。こうした影響は医療従事者の家族に対しても向かっている。感染の不安が重なって、医療従事者の離職や休診、診療の差し控えなどにつながっている」と指摘した。医療従事者の子供の通園や通学の拒否といった影響も出てきている。

その上で、誰もが感染しうる感染症だという事実や、誰もが気づかないうちに感染させてしまう可能性のあることを国民が広く理解する必要があると指摘し、「病気に対して生じた偏見や差別が、さらに病気の人を生み出し、感染を拡大させるという負のスパイラルを招く恐れがある」との危機感を表明した。そして、「偏見や差別は絶対にあってはならない。感染症への感染リスクと隣り合わせで働いているすべての人々に対する敬意をみんなで示してほしい」と訴えた。

自粛、制限など、今はみんなが苦しい状況に置かれている。その中で医療従事者に対する明暗の分かれるこれらの動きについて、みんなはどのように考えるだろうか。



手をつなぐ
場をつなぐ
会話をつなぐ
心をつなぐ
想いをつなぐ



つながるものはたくさんあっても
つなぐのはいつも
人なんだ

最近本当にそう思います。やっぱり、人なんですよね。人の心が大切ですね。